

各位

八千代医療センター 医薬品情報室

## 新規採用医薬品のお知らせ

平成 26 年 11 月 19 日に行われた第 88 回薬事委員会において、下記の医薬品の新規採用および採用区分変更、採用中止が決定しましたのでお知らせします。

下記の医薬品の処方開始日は、平成 26 年 12 月 1 日からとなります。

採用区分

A...院内・院外共通

B...院内・院外共通（在庫を置いていないため、供給されるまで半日程度かかる場合があります）

C...院外専用

## 採用医薬品

	商品名	一般名	規格	採用区分・薬効等
内服	ザイティガ錠 250mg	アビラテロン酢酸エステル	250mg/錠	B 採用 前立腺癌治療剤（CYP17 阻害剤）
外用	タコシール組織接着用シート （ハーフサイズ）	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分	4.8cm×4.8cm/枚	A 採用 シート状生物学的組織接着・閉鎖剤
外用	ドボベット軟膏	カルシポトリオール水和物 ヘタタラソソゾプロピオン酸エステル	50.0µg 0.643mg/g 15g/本、30g/本	B 採用 尋常性乾癬治療剤

## 院外専用採用医薬品

	商品名	一般名	規格	採用区分・薬効等
内服	イマチニブ錠 100mg 「NK」	イマチニブメシル酸塩	100mg/錠	C 採用 抗悪性腫瘍剤
内服	コンプラビン配合錠	クロビドグレル アスピリン	75mg 100mg/錠	C 採用 抗血小板剤

## 採用区分変更医薬品

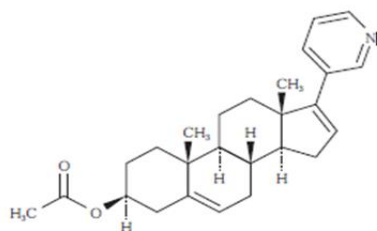
なし

## 採用削除医薬品

なし

## ザイティガ錠 250mg

一般名 : アビラテロン酢酸エステル  
規格 : 250mg/錠  
分子式 : C<sub>26</sub>H<sub>33</sub>NO<sub>2</sub>  
分子量 : 391.55  
構造式 :



禁忌 : 1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者  
2.重度の肝機能障害患者 (Child-Pugh スコア C)

効能・効果 : 去勢抵抗性前立腺癌

用法・用量 : プレドニゾロンとの併用において、通常、成人にはアビラテロン酢酸エステルとして1日1回1,000mgを空腹時に経口投与する。

主な副作用 : 承認時までの国内第Ⅱ相臨床試験における安全性評価対象症例 95 例中 46 例 (48.4%)に副作用(臨床検査値異常を含む)が認められた。主なものは、AST(GOT)増加 13 例(13.7%)、ALT(GPT)増加 12 例(12.6%)、低カリウム血症 8 例(8.4%)、高脂血症 7 例(7.4%)、高血圧 4 例(4.2%)であった。  
海外第Ⅲ相臨床試験における安全性評価対象症例 1333 例中 991 例(74.3%)に副作用(臨床検査値異常を含む)が認められた。主なものは、疲労 328 例(24.6%)、ほてり 202 例(15.2%)、低カリウム血症 188 例(14.1%)、悪心 179 例(13.4%)、末梢性浮腫 160 例(12.0%)、高血圧 125 例(9.4%)、便秘 108 例(8.1%)、下痢 101 例(7.6%)、嘔吐 92 例(6.9%)、浮動性めまい 81 例(6.1%)、AST(GOT) 増加 69 例(5.2%)、ALT(GPT)増加 68 例(5.1%)であった。(申請時)

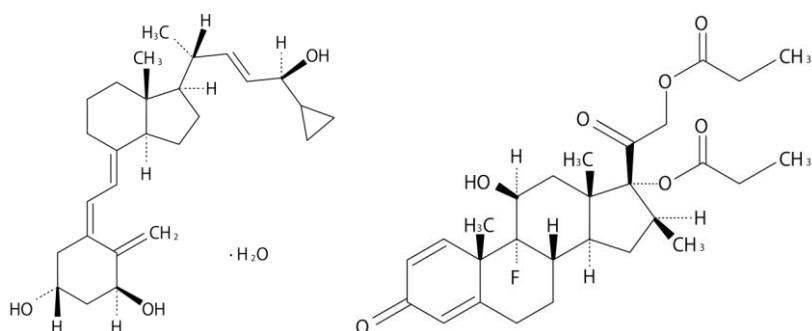
会社名 : ヤンセンファーマ株式会社 / アストラゼネカ株式会社  
薬価 : 3690.90 円/錠  
同一成分薬 : なし  
同効薬 : イクスタンジカプセル 40mg (B 採用)

## タコシール組織接着用シート（ハーフサイズ）

- 一般名 : ヒトフィブリノゲン、トロンビン
- 規格 : ヒトフィブリノゲン 5.5 mg/ヒト血液由来成分（採血国：米国、ドイツ、オーストリア、採血方法：非献血） トロンビン画分 2.0 IU/ヒト血液由来成分（採血国：米国、ドイツ、オーストリア、採血方法：非献血） /1cm<sup>2</sup>
- 分子式 : 該当しない
- 分子量 : 該当しない
- 構造式 : 該当しない
- 禁忌 : 1.本剤の成分またはウマ血液を原料とする製剤（乾燥マムシウマ抗毒素等）に対し過敏症の既往歴のある患者  
2.下記の製剤により治療を受けている患者  
凝固促進剤（臓器抽出製剤、蛇毒製剤）、抗線溶剤〔「相互作用」の項参照〕
- 併用禁忌 : 凝固促進剤（臓器抽出製剤、蛇毒製剤）  
トロンビン、フィブリノゲン、ヘモコアグラゼ  
抗線溶剤  
トラネキサム酸、アプロチニン製剤
- 効能・効果 : 肝臓外科、肺外科、心臓血管外科、産婦人科及び泌尿器外科領域における手術時の組織の接着・閉鎖（ただし、縫合あるいは接合した組織から血液、体液又は体内ガスの漏出をきたし、他に適切な処置法のない場合に限る）
- 用法・用量 : 接着・閉鎖部位の血液、体液をできるだけ取り除き、本剤を適切な大きさにし、乾燥状態のままあるいは生理食塩液でわずかに濡らし、その活性成分固着面を接着・閉鎖部位に貼付し、通常 3~5 分間圧迫する。
- 主な副作用 : 総症例数 576 例中(国内臨床試験 55 例、海外臨床試験 521 例)において、46 例(7.99%)に副作用が認められた。主な副作用は、発熱 19 例 (3.30%)、処置後局所反応 4 例(0.69%)、発疹 3 例(0.52%)、気胸 3 例(0.52%)、胸水 3 例(0.52%)であった。(承認時)
- 会社名 : CSL ベーリング株式会社
- 薬価 : 32713.80 円/枚
- 同一成分薬 : タコシール組織接着用シート（レギュラーサイズ）（A 採用）
- 同効薬 : ベリプラスト P コンビセット 組織接着用 3mL（A 採用）、  
ボルヒール組織接着用 1mL、3mL、5mL（各 A 採用）

## ドボベツト軟膏

- 一般名 : カルシポトリオール水和物 / ベタメタゾンジプロピオン酸エステル  
規格 : カルシポトリオール水和物 52.2 $\mu$ g/g (カルシポトリオールとして 50.0 $\mu$ g)、  
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル 0.643mg /g  
分子式 : カルシポトリオール水和物 C<sub>27</sub>H<sub>40</sub>O<sub>3</sub> · H<sub>2</sub>O  
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル C<sub>28</sub>H<sub>37</sub>FO<sub>7</sub>  
分子量 : カルシポトリオール水和物 430.62  
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル 504.59  
構造式 :  
カルシポトリオール水和物                      ベタメタゾンジプロピオン酸エステル



- 禁忌 : 1.本剤の成分に対して過敏症のある患者  
2.細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症及び動物性皮膚疾患（疥癬、けじらみ等）[これらの疾患が憎悪するおそれがある。]  
3.潰瘍（ベーチェット病は除く）、第2度深在性以上の熱傷・凍傷 [皮膚の再生が抑制され、治癒が遅延するおそれがある。]

効能・効果 : 尋常性乾癬

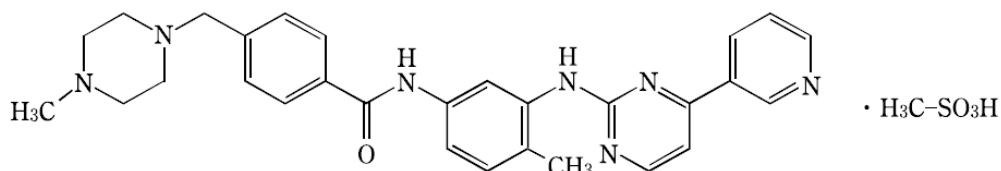
用法・用量 : 通常、1日1回、患部に適量塗布する。  
<用法・用量に関連する使用上の注意>  
1週間に90gを超える使用は行わないこと。

主な副作用 : 承認時までの国内臨床試験において、239例中9例（3.8%）に9件の副作用が認められた。副作用の内訳は、毛包炎2件、膿疱性発疹、乾癬の悪化、色素脱失、肝機能異常、単純ヘルペス、末梢性浮腫及び挫傷が各1件であった。

会社名 : 協和発酵キリン（株）  
薬価 : 276.40 円/g  
同一成分薬 : なし  
同効薬 : ドボネックス軟膏 50 $\mu$ g/g（C採用）、リンデロン - DP軟膏（A採用）

## イマチニブ錠 100mg 「NK」

一般名 : イマチニブメシル酸塩  
規格 : 100 mg/1 錠  
分子式 :  $C_{28}H_{31}N_7O \cdot CH_4O_3S$   
分子量 : 589.71  
構造式 :



禁忌 : 1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者  
2.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

効能・効果 : 慢性骨髄性白血病  
フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病

用法・用量 :

1. 慢性骨髄性白血病の場合

慢性期：通常、成人にはイマチニブとして1日1回400mgを食後に経口投与する。なお血液所見、年齢・症状により適宜増減するが、1日1回600mgまで増量できる。

移行期又は急性期：通常、成人にはイマチニブとして1日1回600mgを食後に経口投与する。なお血液所見、年齢・症状により適宜増減するが、1日800mg(400mgを1日2回)まで増量できる。

2. フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の場合

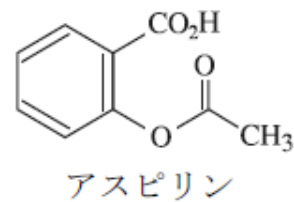
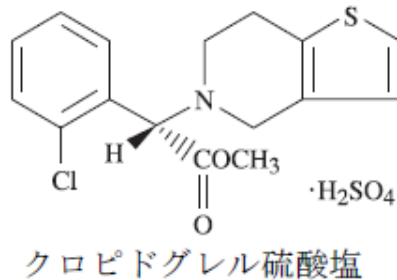
通常、成人にはイマチニブとして1日1回600mgを食後に経口投与する。なお血液所見、年齢・症状により適宜減量する。

主な副作用 : 骨髄抑制、悪心嘔吐、発疹、肝機能障害、間質性肺疾患、体液貯留、浮腫、下痢、筋痙攣

会社名 : 日本化薬株式会社  
薬価 : 1,540.30 円/錠  
同一成分薬 : グリベック錠 100mg (B 採用)  
同効薬 : スプリセル錠 20mg、50mg (各 B 採用)、  
タシグナカプセル 150mg、200mg (各 C 採用)

## コンプラビン配合錠

- 一般名 : クロピドグレル硫酸塩 / アスピリン  
規格 : クロピドグレル 75mg (クロピドグレル硫酸塩として 97.88mg)  
アスピリン 100mg  
分子式 :  $C_{16}H_{16}ClNO_2S \cdot H_2SO_4$  (クロピドグレル硫酸塩)  
 $C_9H_8O_4$  (アスピリン)  
分子量 : 419.90 (クロピドグレル硫酸塩) / 180.16 (アスピリン)  
構造式 :



- 禁忌 : 1.出血している患者  
2.出血傾向のある患者  
3.本剤およびサリチル酸系製剤に対し過敏症の既往歴のある患者  
4.消化性潰瘍のある患者  
5.アスピリン喘息  
6.出産予定日 12 週以内の妊婦

効能・効果 : 経皮的冠動脈形成術(PCI)が適応される下記の虚血性心疾患  
急性冠症候群 (不安定狭心症、非 ST 上昇心筋梗塞、ST 上昇心筋梗塞  
安定狭心症、陳旧性心筋梗塞)

用法・用量 : 通常、成人には、1日1回1錠 (クロピドグレルとして 75mg 及びアスピリンとして 100mg) を経口投与する。

主な副作用 : 皮下出血、肝機能障害 (ALT 上昇・AST 上昇・ $\gamma$ -GTP 上昇 等)、  
血液障害 (好中球減少)

会社名 : サノフィ株式会社

薬価 : 282.70 円

同一成分薬 : なし

同効薬 : バイアスピリン錠 100mg (A 採用)、プラビックス錠 75mg (A 採用)